

図書館協議会の役割

図書館協議会は、図書館法第 14 条及び白井市立図書館設置条例第 3 条に基づいて設置され、図書館の運営について館長の諮問に応ずるとともに、図書館サービスについて館長に意見を述べる役割を担っています。

白井市立図書館の場合は、委員 10 名以内、任期 2 年と条例で定められています。

○根拠法令等

図書館法

(図書館協議会)

第十四条 公立図書館に図書館協議会を置くことができる。

- 2 図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする。

白井市立図書館設置条例

(図書館協議会)

第 3 条 法第 14 条第 1 項の規定により、白井市立図書館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

- 2 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者並びに公募による市民の中から、教育委員会が委嘱する。
- 3 協議会は、委員 10 人以内をもって組織する。
- 4 委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

図書館運営の目標値のサービス評価指標説明

サービス評価指標	図書館運営の目標値	評価指標説明	
人口	65,500人	白井市第5次総合計画 基本構想 将来人口の見通し(平成32年)	
施設			
図書館数(+センター図書室)	1館+5室		
延床面積(+センター図書室)	2,919㎡(375㎡)		
職員			
職員数(うち司書数)	9(8)人	市民に適切な情報提供ができるよう努めるための数値	
臨時職員数(うち司書数)	18.5(9.3)人		
資料			
資料全体の購入費	24,000千円	一般に流通している図書や雑誌・新聞、視聴覚資料の中から市民に役立つ資料を購入しているかを測る数値	
市民一人あたりの資料費(資料購入費/人口)円	366.4円		
図書年間購入冊数	12,000冊		
視聴覚資料年間購入点数	170点		
雑誌年間購入タイトル数	233誌		
新聞年間購入タイトル数	20紙		
データベース	5タイトル		
蔵書冊数	546,000冊		将来にわたって市民に提供できる資料(図書)の数値
市民一人あたりの蔵書冊数(蔵書冊数/人口)冊	8.3冊		
提供			
貸出冊数	589,500冊	所蔵資料がどのくらい利用されているかを測る数値	
市民一人あたりの貸出冊数(貸出冊数/人口)冊	9.0冊		
登録者数(市民)	20,763人	図書館サービスを受けるために、どのくらいの市民に利用されているかを測る数値	
レファレンス件数	4,500件	市民の調査研究のために機能しているかを測る数値	
市民協働			
ボランティア数	29人+4団体	市民協働を測る数値	

図書館運営の目標値の達成状況(2016)と改善点

サービス評価指標	図書館運営の目標値	2015 平成27年度 実績	2016 平成28年度 実績 <small>(人口のみ29年3月末現在)</small>	2016 平成28年度 達成状況	改善点
人口	65,500人	63,175人	63,404人		
施設					
図書館数(+センター図書室)	1館+5室	1館+5室	1館+5室		
延床面積(+センター図書室)	2,919㎡(375㎡)	2,919㎡(375㎡)	2,919㎡(375㎡)		
職員					
職員数(うち司書数)	9(8)人	9(8)人	8(8)人	・職員1人減員となったことから、職員の時間外勤務が増えた。	・引き続き人事要求を行うとともに、事務の効率化に努める。
臨時職員数(うち司書数)	18.5(9.3)人	18.5(6.6)人	17.9(5.7)人		
資料					
資料購入費	24,000千円	23,233千円	19,865千円	・前年度より約340万円減額となったことから、利用者に提供できる新刊購入冊数が減少した。	・選書会議を増やしてできるだけ購入冊数を増やすよう努める。 ・複本・類書の購入数を抑えることや定期的に発行されるものを隔年購入する。
市民一人あたりの資料費 (資料購入費/人口)円	366.4円	367.8円	313.3円		
図書年間購入冊数	12,000冊	12,288冊	10,360冊		
視聴覚資料 年間購入点数	170点	170点	163点	概ね目標を達成した。	・図書と視聴覚資料のバランスを考慮し予算の配分を工夫する。
雑誌 年間購入タイトル数	233誌	233誌	230誌	概ね目標を達成した。	・利用状況を考慮し、各分野における一般雑誌を中心に提供できるよう努める。
新聞 年間購入タイトル数	20紙	20紙	20紙	目標を達成した。	・利用状況を考慮し、幅広い情報を提供できるようタイトル数の確保に努める。
データベース数	5タイトル	3タイトル	4タイトル	・国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの閲覧を開始した。このサービスは白井で国会図書館の資料が調べられると好評であるが、自館で複写ができないことが課題である。	・信頼のおける最新の情報の利用を広く周知する。 ・「国会図書館デジタル化資料」の複写が自館でできるよう整備する。
蔵書冊数	546,000冊	544,843冊	546,938冊	・目標を達成した。 ・図書館開架とセンター図書室の棚は新刊書を中心に構成しており、利用者の利便に努めている。 ・魅力ある資料構成となるよう、棚の入れ替え作業を行っている。	・資料収集要綱・除籍要綱に基づき適正な蔵書管理に努める。
市民一人あたりの蔵書冊数 (蔵書冊数/人口)冊	8.3冊	8.6冊	8.6冊		
提供					
貸出冊数	589,500冊	510,935冊	492,094冊	・減少傾向にある。	・新鮮で魅力ある資料を提供できるよう予算獲得に努める。 ・書庫にある資料の展示など、利用の少ない資料も活用しながら、貸出数の増加につなげる。
市民一人あたりの貸出冊数 (貸出冊数/人口)冊	9.0冊	8.1冊	7.8冊		
登録者数 (白井市民のみ)	20,763人	19,709人	18,742人	・減少傾向にある。 ・利用者の利便性向上のため、平成28年度は祝日に開館する日数を11日増やした。	・祝日開館の周知を図るほか、来館しない市民へはホームページ等で図書館PRし登録促進に努める。 ・転入者向け利用案内の配布や他課との連携事業で利用を促す。
レファレンス件数	4,500件	4,486件	4,681件	目標を達成した。 所蔵資料の調査や資料案内が増加している。	・レファレンス事例を当館HPおよび国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に登録し公開するなど、図書館のレファレンスサービスの更なる拡充に努める。
市民協働					
ボランティア数	29人+4団体	25人+4団体	19人+4団体	ブックスタート類似事業において、検診時間の短縮により、活動の場が提供できなくなったことから、平成28年度末にボランティア活動を終了した。	図書館での新たな市民協働活動について調査研究する。

白井市立図書館運営の望ましい基準と目標値(2016-2020)

1. 目的

白井市立図書館のよりよい運営を目指して、目標値を設定しその達成に努めます。また、その達成状況の自己点検及び第三者評価を踏まえて、図書館サービスの一層の改善をはかるとともに、その運営状況を公表します。

2. 期間

2016 年(平成 28 年度)から 2020 年(平成 32 年度)までの 5 年間とします。

3. 目標値設定の基本的な考え方

本市の図書館サービス水準については、千葉県内公立図書館と比較して高い水準にあり、今後も白井市第 5 次総合計画・前期基本計画や白井市教育大綱を踏まえてサービスの維持を図りつつ、毎年度定める本館の運営方針に基づき更なる向上に努めてまいります。

具体的には、インターネットの普及などにより利用者数が減少傾向にある中、本市の財政状況や定員管理方針などを考慮しながら平成 27 年度の状況を基本とし、全国の同規模館の状況も勘案して数値目標を設定します。

4. 白井市立図書館協議会による第三者評価と運営の改善

各年度の図書館運営の目標値の達成状況については、白井市立図書館協議会に報告します。同協議会の第三者による評価を踏まえ、必要な運営改善に努めたのち、改善状況について再度同協議会に報告します。

5. 運営状況の公表

各年度の図書館運営の目標値の達成状況及び白井市立図書館協議会による第三者評価については、白井市立図書館ホームページで公表します。

<参考>

- ・図書館法第7条の2(設置及び運営の望ましい基準)
- ・第7条の3(運営の状況に関する評価等)
- ・第7条の4(運営の状況に関する情報の提供)
- ・公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準

平成 13 年 7 月 18 日文部科学省告示第 132 号

図書館運営の望ましい基準と目標値 (2016-2020)

	図書館運営の目標値
人口	65,500人
施設	
図書館数(+センター図書室)	1館+5室
延床面積(+センター図書室)	2,919㎡(375㎡)
職員	
職員数(うち司書数)	9(8)人
臨時職員数(うち司書数)	18.5(9.3)人
資料	
資料購入費	24,000千円
市民一人あたりの資料費 (資料購入費/人口)円	366.4円
図書 年間購入冊数	12,000冊
視聴覚資料 年間購入点数	170点
雑誌 年間購入タイトル数	233誌
新聞 年間購入タイトル数	20紙
データベース数	5タイトル
蔵書冊数	546,000冊
市民一人あたりの蔵書冊数 (蔵書冊数/人口)冊	8.3冊
提供	
貸出冊数	589,500冊
市民一人あたりの貸出冊数 (貸出冊数/人口)冊	9.0冊
登録者数(市民)	20,763人
レファレンス件数	4,500件
市民協働	
ボランティア数	29人+4団体

レファレンスサービスの拡充について

今年度はレファレンスサービス※の拡充に努めるため、事例公開及びコーナーを設置します。

※レファレンスサービスとは

職員が調べもののお手伝いをします。

たとえば本の探し方が分からない、探している情報がどの本に載っているかわからない場合など、遠慮なくおたずねください。

当館で資料が用意できない場合は、県立図書館・国会図書館からも資料などを取り寄せます。
(白井市立図書館ホームページより)

1. レファレンス事例公開

過去に受け付けたレファレンス事例のうち、回答について再度確認を行う。その中から公開に適するものを選び、1～2ヶ月に1度、奉仕係司書が事例データを作成する。

○紙ベースでの作成・掲示・保存

○図書館ホームページでの公開

○レファレンス協同データベース※への登録（一般公開レベル）

※レファレンス協同データベースとは

レファレンス協同データベースは、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベースです。

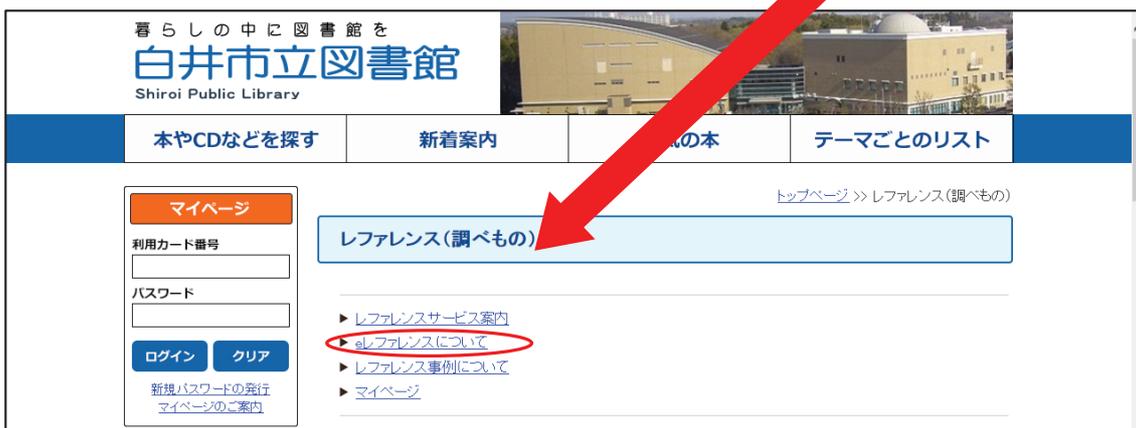
2. レファレンスコーナー設置

レファレンス事例公開にあわせ、検索機横（現：雑誌差し替え棚）にレファレンスコーナーを設置。レファレンス事例1件ずつ、関連図書とともに展示する。

○事例は定期的に入れ替える。

○関連図書は、本の情報を書いたレシートのコピーを併せて展示し、貸出にも対応する。

図書館ホームページ イメージ



レファレンス[調べ物]事例 NO.1

職員が調べもののお手伝いをします。

たとえば本の探し方が分からない、探している情報がどの本に載っているかわからない場合など、遠慮なくおたずねください。

当館で資料が用意できない場合は、県立図書館・国会図書館からも資料などを取り寄せます。

レファレンス番号:1000187

質問	海藻を押し花のようにして、しおりを作りたい
回答	<p>“海藻”で所蔵資料を検索したところ、『海藻』P254に海藻でつくる押し花は“海藻おしば”と言うとする記述がありました。</p> <p>『広辞苑』第5版 岩波書店 によると 【海藻】①海藻(かいそう)に同じ ②海中に生ずる顕花植物(けんかしよくぶつ)。</p> <p>『海藻の疑問50』によると 「海藻」は「うみくさ」と呼び種子植物、「海藻」は「かいそう」と呼び海産種子植物と異なる生物とされています。</p> <p>『海藻 日本で見られる388種類の生態写真+おしば標本』P254～P257 『海藻ハンドブック』P92～P95 『海藻おしばをたのしむ』しおりの作り方ありP30,31,58 『海藻を観察しよう』P24～P26</p> <p>『海藻おしばをたのしむ』を提供しました。</p>
参考資料	<p>(1) 海藻おしばを楽しむ 野田三千代/共著 日本ヴォーグ 1998 594.9</p> <p>(2) 海藻ハンドブック 横浜康継/写真 総合著 文一総合出版 2013 474</p> <p>(3) 海藻 阿部秀樹/著 誠文堂新光社 2012 474</p> <p>(4) 海藻の疑問50 日本藻類学会/編集 成山堂書店 2016 474</p> <p>(5) 海藻を観察しよう 菊地則男/編集・執筆 千葉県立中央博物館海の分館 2003 474</p> <p>(6) 原色日本海藻図鑑 瀬川宗吉/著 保育社 1978 474</p>

レファレンス番号:R:1000253

質問	長柄町出身の海軍中将・大田実が、沖縄戦で通信兵に打たせたとされる電報が読みたい
回答	<p>大田 実 (海軍中将) 明治24年(1891年)4月7日～昭和20年(1945年)6月13日</p> <p>昭和20年6月6日、海軍次官宛に沖縄県民の献身的な戦いぶりを後世にわたり配慮を要請する電文『沖縄県民斯克戦ヘリ』を打電しました。 『沖縄県民斯克戦ヘリ』田村洋三/著 P380、『海軍名語録』P79～91に記載されています。 大田実については、『日本陸海軍総合事典』P192、『日本陸海軍事典』P450に記載があります。</p>
参考資料	<p>(1) 沖縄県民斯克戦ヘリ 田村洋三/著 講談社 1994 289.1/才/</p> <p>(2) 海軍名語録 吉田俊雄/著 文芸春秋 1989 B/397.2</p> <p>(3) 日本陸海軍総合事典 秦郁彦/編 東京大学出版会 2005 392.1</p> <p>(4) 日本陸海軍事典 原剛/編 新人物往来社 1997 392.1</p>

レファレンス番号: R1000106

質問	「十三夜講」「二十三夜講」について、なぜ女性の講といわれるのか
回答	仏事ということから『仏教事典』、故事ということから『日本国語大辞典』を見ましたが、該当はありませんでした。 “月待ち”とも呼ぶ、ということから民俗学の棚に行き調べました。 『精選日本民俗辞典』P410“二十三夜待”(にじゅうさんやまち)の項目に、「月の満ち欠けが女性の生理と結びついて安産の信仰が加わったもの～」との記述があり、この本を提供しました。
参考資料	(1) 精選日本民俗辞典 福田アジオ／編 吉川弘文館 2006 380.3

レファレンス番号: R1000327

質問	白井の今井堤について調べている、何か資料はないか
回答	『今井堤』写真集を既に関覧されていて、P79の撮影地の文で「昭和58年千葉県“美しいふるさとづくり”の一環として指定を受け～」となっているのでその関係の文章があるのでは、とのことでしたが、当館の資料では見つけることができませんでした。 郷土資料館、秘書広報課に問い合わせたところ『しろい環境よいとこ百選』のP76～に今井堤の情報があるときき、当館所蔵の資料を確認し、提供しました。 また、2017年3月16日(木)の千葉日報の桜の特集P4に白井の今井堤の桜の記事があり、写真付きで掲載されていたので合わせて紹介しました。
参考資料	(1) 今井堤 高橋良子／撮影 日本写真企画 2006 748 (2) しろい環境よいとこ百選 しろい環境よいとこ百選選定委員会／編集 しろい環境よいとこ百選選定委員会 2012 291.3 (3) 千葉日報 2017年3月16日(木) 特集P4

レファレンス番号: R1000315

質問	朱熹の書いた「偶成」という漢詩が載った本はあるか
回答	“偶成”とは、「詩歌などが、偶然にできること。ふとできあがること。」という意味(「広辞苑」第四版)であり、何人もの著者により作られています。 朱熹の“偶成”は、“少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず、未だ覚めず池塘 春草の夢、階前の梧葉 巳に秋声”であると言われてはいますが、この詩は朱熹作ではないとする意見もあるようです。そこで、それぞれの意見について記述のある次の本を提供しました。 1. 朱熹作とするもの ① 漢文・書き下し分・評釈等がある資料 「漢詩の名作集(上)」P9、「漢詩の解釈と鑑賞事典」P478 ② 『偶成』のうち、“少年老い易く学成り難し”部分についてのみ解説がある資料 「中国古典名言事典」P728、「故事成語名言大辞典」P595 「故事ことわざ辞典」P734、「中国故事成語大辞典」P629 2. 朱熹作ではないとする資料 「成語大辞苑」(0100966710)P584
参考資料	(1) 漢詩の名作集 上 簡野道明／原著 明治書院 2011 921 (2) 漢詩の解釈と鑑賞事典 前野直彬／編 旺文社 1979 921 (3) 故事成語名言大辞典 鎌田正, 米山寅太郎／著 大修館書店 1993 813.4 (4) 中国古典名言事典 諸橋轍次／著 講談社 1979 159.8 (5) 新編故事ことわざ辞典 鈴木棠三／編著 創拓社 1992 813.4 (6) 中国故事成語大辞典 和泉新／編 東京堂出版 1992 823 (7) 成語大辞苑 主婦と生活社 1995 813.4 (8) 広辞苑 新村出／編 岩波書店 1991 813.1